



令和5年度 FCP 食の安全・信頼に関する 新たな知見の蓄積勉強会 参加者アンケート集計結果

1. アンケート調査について

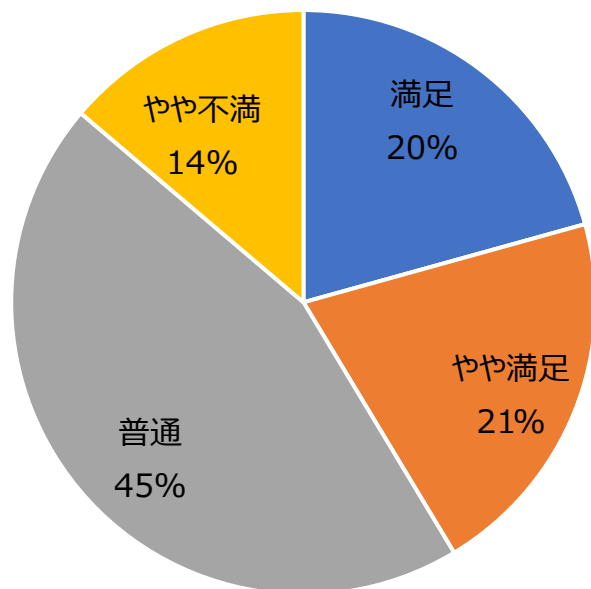
目的	翌年度以降の食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会の企画や運営、その他FCP活動の参考とするため。
調査対象	第1回食の安全・信頼に関する新たな知見の蓄積勉強会 参加者 42名（35社 1省庁 個人1） 内、有効回答者数 29名（回答率：69.0%）
開催日時・場所	令和5年10月18日（水）13:00～16:40、農林水産省本省7階講堂（Web併用）
方法	Webアンケートフォームを、全参加者にメールにてご案内
調査内容	◇講演について（満足度及び意見・感想等） - Q1）「食料安全保障について」（5段階評価及び自由記入） - Q2）「日本の食と農の未来～持続可能な食卓を考える～」（5段階評価及び自由記入） - Q3）「静岡から日本の一服〔ippuku〕を世界へ。」（5段階評価及び自由記入） ◇ワークショップについて（進行振り返り感想及び意見） - Q4）ワークショップのテーマや進め方は適切でしたか（5段階評価及び自由記入） ◇全体を通して - Q5）全体の時間配分について ◇今後に向けて - Q6）今後の勉強会でテーマとして取り上げてほしい、あるいは意見交換したい題材 ◇その他 - Q7）事務局へのご意見やご要望

2. アンケート結果 （講演）

<講演について>

Q1 食料安全保障について（農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 西畑 皓一郎企画官）

評価（5段階評価） 意見、感想（自由記入）



<感想>

- ・ 世界情勢の変化により、重要な課題になっています。タイムリーな内容でした。
- ・ あらためて日本の食品自給力が国土的に足りないことがわかった。自給率向上へ貢献するために何をするべきか、ワークショップで考えるきっかけになった。
- ・ 経済安全保障が揺らいでいる中で、国土面積と活用方法を考えること、農地を食料安全保障というきりのないものに時間や労力を割くのが日本にとって妥当かどうかを検討するのは難しいものだとは再認識した。
- ・ 国として有事の際にどのようにして食料を確保するのかについて知ることができた。しかし、農業の担い手や必要な技術等が有事の際に揃えることができるのかは疑問に感じた。

<講演内容のボリューム等>

- ・ 時間が短く感じました。もう少ししっかりお話伺いたかったです。
- ・ 少し早口だったのでWEBでは理解しにくいと思いました。
- ・ もう少し要点を絞って詳細を説明いただきたかったです。

<期待していた内容等>

- ・ 状況説明で未来に向けたメッセージが乏しい。
- ・ 今後の方針や施策、予測・予想などの内容が無かった的印象。
- ・ 昨今のウクライナ情勢や中国の動向を踏まえた、現状分析を聞きたかった。

<その他>

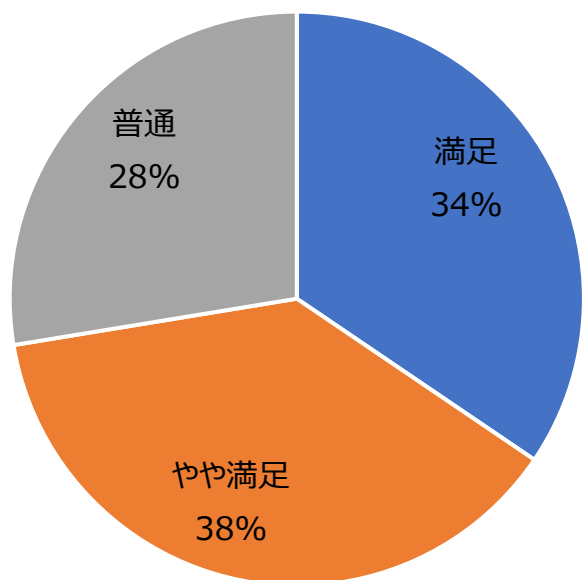
- ・ 終了後にご挨拶（名刺交換）させていただきたかったです。

2. アンケート結果 （講演）

<講演について>

Q2 日本の食と農の未来～持続可能な食卓を考える～（千葉商科大学 人間社会学部 小口 広太様）

評価（5段階評価） 意見、感想（自由記入）



<感想>

- ・ 自給自足が大切ということ、有機農業で成功している村があることなどあたらしく知ることが多かった。
- ・ 土地活用という視点にこだわらず、食糧の供給量から考えた農業のあり方という考え方で、理論的な刺激を受けた。
- ・ フードシステムの転換が気候危機の対策となる、が印象的でした。
- ・ 農があつての食だということを子供たちにも伝えたいと思いました。
- ・ 市民農場の取り組みなど実際に携わりながらのお話が非常に興味深かった。あらためて食と教育を考える機会にもなった。
- ・ 国民の食のリテラシーを高めるために、こういった緩い感じの啓発と行動変容促進を伝えていくしかないのだろうと思う。
- ・ 農水省職員なのに、米も野菜も作ったことがないことに引っ掛かりを感じていたので、今後の在り方を考えるいいきっかけをいただいた。

<期待していた内容等>

- ・ 地方の未来に対してのメッセージが欲しかった。

<その他>

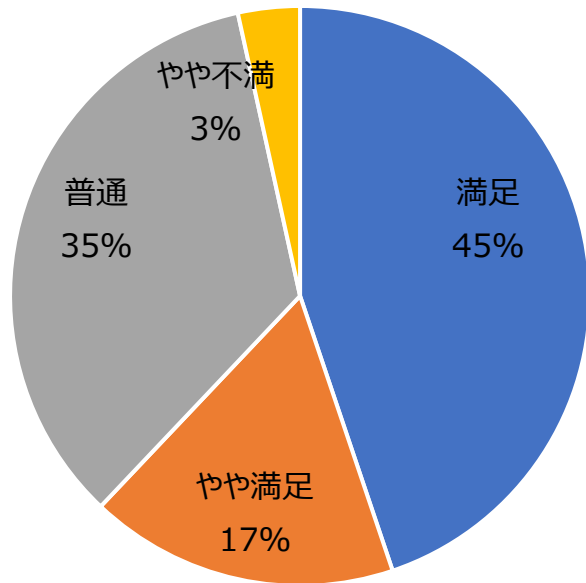
- ・ 東京でも援農ができることも分かったが、個人として参加するメリットがよくわからなかった。

2. アンケート結果 （講演）

<講演について>

Q3 静岡から日本の一服(ippuku)を世界へ。(ハラダ製茶株式会社 品質管理室 室長 田實 菜穂子様)

評価（5段階評価） 意見、感想（自由記入）



<感想>

- お茶の輸出についてかなりご苦労されたようで、詳細な情報をお聞かせ頂きよかったですと思いました。
- 輸出するにも輸入するにも認証等が必要な状況。安全のためにも国際的な品質の担保があるといいなと思い拝聴しました。また、食の多様性のためにも、国の垣根を超えたやり取りが活発になっていけばいいなと感じました。
- 輸出国の基準に適合可能かを調べるのに、自社農場で実際にテスト生産すること、さらに輸出向けロットの確保など、輸出に携わっている方の生の声が聞けたから。**（この方は、「満足」を選択されています）**
- お茶というもの（お茶のビジネス）を知らなかったので生産者と加工者の境の話や輸出に際して気を付けるべき認証、文化に寄り添うなどから関心が持てた。
- 輸入（輸出？）をするためにその国のニーズの把握や基準をクリアする必要があることからなかなか食品の輸入（輸出？）はハードルが高いのだなと感じた。

<期待していた内容等>

- 自社業務に関する説明の時間的割合が多く、後半の主たる内容としての課題部分の時間的割合が少なく、それらのバランス調整が必要であったとの印象。

<その他>

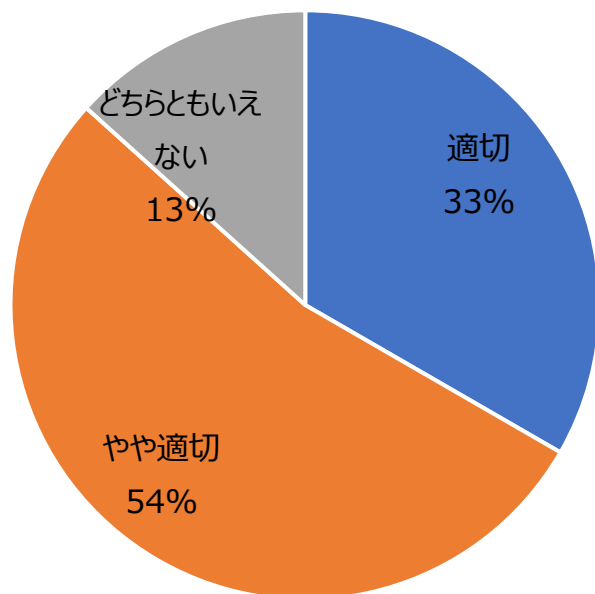
- 終了後にご挨拶（名刺交換）させていただきたくったのですが、他の方とお話されていたため断念しました。

2. アンケート結果（ワークショップ）

＜ワークショップについて（テーマ：日本の食料供給に係る課題と対応を考える）＞

Q4 ワークショップのテーマや進め方は適切でしたか

評価（５段階評価） 意見、感想（自由記入）



＜議論の質や達成度について＞

- グループのリーダーのファシリテートが非常によかったため、グループの話が進んだ。特に中身については色々な立場、経験の人が前向きに課題をとらえ議論できたことが良かったと感じました。
- 普段お話できない業種の方と意見交換ができて有意義でした。

＜テーマ設定について＞

- テーマ、論点が広すぎたように感じました。
- 複数の作物もしくは製品原料の輸出例を加えて、輸出に係る勉強会に特化してもよかったのではと思いました。

＜運営面について＞

- 知見の蓄積勉強会でのワークショップは会場参加者限定で検討をお願い致します。
- 当勉強会も後半のワークショップが主体とするならば、やはり前半の講演会運営における時間管理強化を進め、ワークショップの時間を十分確保する必要があるものと考えます。
- もう少しワークが短めでもいいです。

2. アンケート結果（全体を通して／意見交換をしたい題材等）

<全体を通して>

Q5 全体の時間配分について

意見、感想（自由記入）

<講義に関して>

- ・ 最初の講義に関してはデータが大量で見るのが難しかった。
- ・ 「食料安全保障について」については説明内容が多く、**全てではなく特化されてはいいかな**と思いました。
- ・ 適切だと感じました。ご講演者・ワークショップ発表者 いずれも予定時間いっぱいを使う傾向があると思いますので、**当初予定50分なら、45分として都度5分間の休憩を挟む構成**としてはいかがでしょうか。

<ワークショップについて>

- ・ もう少しワークが短めでもいいです。
- ・ ワークショップをもう少し長めにとった方が良かったと思います。
- ・ テーマ、論点が広すぎたように感じました。
- ・ 各チーム発表後に参加者からの質問時間があっても良い。
- ・ 一チームの人数はもう少し多めのほうが、いろんな意見が出て面白い。
- ・ 知見の蓄積勉強会でのワークショップは会場参加者限定で検討をお願いします。今回の会場参加者人数であれば3チームとしても良かったと思いますが、最低3人いれば1チーム構成することは可能と感じました。

<その他>

Q7 事務局へのご意見やご要望等

- ・ 当知見の蓄積勉強会の参加者が以前と比較して減少しているとの印象です。参加者が多ければそれで良いとは思いますが、今後持続的な運営を目途に、先記の分析・評価のうえ、見直しの検討をお願いします。

<今後に向けて>

Q6 今後の勉強会でテーマとして取り上げてほしい、あるいは意見交換したい題材

- 地方の農業の現状
- フードテック
- 食品ロス防止策について、より具体的な取組事例等をテーマとして挙げて頂ければ幸いです。
- 代替食品、細胞性食品について
- BCP（※Business Continuity Planning：事業継続計画）について興味を持っています。国、あるいは各社がリスクとしてとらえるものとそれに対する備えについて議論したい。
- 東北の処理水放出に関して国として行っていることの共有や、それに対する意見交換。集団食中毒に関して実際に起きたらどう対応をするのかなどが知りたいです。
- 「人手不足」、「DX対応」、「生産性向上」も食の安全・安心と切り離せない課題ですので、テーマとして取り上げていただければと思います。
- 持続可能な食料品の価格形成の観点から、有機米の買い支え等に参加しているOKUTAの方に話を聞いてみたい。
- 自動車関連産業の就業人口は542万人だそうです。食品関連産業の就業人口は？です。今後人手不足による就業者の取り合いが発生すると仮定した場合、魅力ある食品関連産業とするにはどのようにしたらよいのか意見交換したいです。
- FCPシートの活用方法。とても便利なシートだと感じているので生産者様にお薦めしていますが、もっと広まってほしいです。